

人と人とのつながり

村上市立村上第一中学校 3年 齋藤 拓真

「生徒の皆さんは、すごく落ち込んでいるんです。」

福島県広野町にある広野中学校の校長先生は、こう話してくれました。

東日本大震災の二ヶ月後に、僕達生徒会代表は、被災地に行きました。テレビ越しではなく、自分の目で被害を見てみると、テレビからはわからない被害の深刻さがよくわかり、心が痛みました。被害を受けた人は、もっと辛い思いをしたのだろうと僕は思いました。

広野中のある広野町と僕達の村上市とはつながりがあります。「今は山中、今は浜・・・・・・・・」から始まる歌「汽車」にゆかりがあるため、村上駅と広野駅には「汽車」の歌碑が建っています。僕達はそれを新潟日報のコラムの文章から知りました。この縁をきっかけに、僕達と先生達で広野中の校長先生を訪問することになったのです。

広野中の校長先生にお会いして最初に僕はこう話しました。

「僕達の学校で集めた募金を、自分達と同じ中学生のために使ってほしいのです。」

「ありがたく使わせていただきます。」

この言葉の後に、校長先生はこう話しました。

「生徒の皆さんはすごく落ち込んでいるんです。だから元気を与えられるような活動ができないでしょうか。」

原発事故の影響で、広野中の職員も生徒も今は他の場所に移り、広野中にはいないそうです。生徒の中には、津波で流されかけた人もいると言っていました。

そんな生徒の皆さんに元気を与えられるような活動・・・・・・・・と言われても、僕にはすぐに思い浮かびませんでした。僕達生徒会がこれまでやってきた活動は、募金活動と支援物資の収集です。その他何ができるのかと思いました。その時に僕達の校長先生が、「日本列島リレー横断」を提案しました。広野中の校長先生は、

「本当ですか？」

ととても驚いていました。それは、日本海側の村上をスタートし、太平洋側の被災地までの約一七五キロメートルをリレー方式で走っていくという活動です。

しばらくして、「日本列島リレー横断参加者募集」の案内が配布されました。落ち込んでいる広野中の生徒を元気づけたいという思いで、僕は参加を決めました。しかし、どれだけの人が一緒に走ってくれるのか、心配でした。ところが、団結式には、僕の予想以上の生徒が集まりました。先生方や保護者のスタッフの方も含めると総勢約四十名でした。

団結式では、広野中の皆さんへ、メッセージを書いた横断幕も届けようという提案が出されました。僕はとても良い企画だなと思いました。メッセージがたくさん書かれた横断幕を届ければ、少しは元気になってくれるのではと思ったからです。

メッセージは、マラソンに参加できない人や他の小学校からもたくさん集まりました。

「私達はつながっています。一緒に乗り越えましょう。」

「信じています、福島の底力を。」

広野中からは、走る僕達のために襷が贈られてきました。「感謝・絆・希望」と書かれたその襷を胸に、僕達のリレーマラソンは出発しました。そして、ゴールでセレモニーをしてくれた広野中の生徒の皆さんに、メッセージ幕と義援金を感動とともに手渡すことができました。広野中の皆さんの明るい笑顔を見て、走ってきて本当に良かったと思いました。

これらの活動から学んだこと—それは、人と人とのつながりです。僕達一中と広野中はこれまで何の関係もありませんでした。広野中の生徒は僕達を温かく出迎えてくれたし、一中生は広野中の生徒のために必死で走りました。僕は、他の人のために何かを頑張ることはとても良いことだと実感しました。

震災後、皆さんはどんなことを考えていますか？自分も何かしなければと思っていても何もできない・・・そんな人はいませんか？小さなことからいいのです。何か行動してみましよう。小さなことでも大勢の人がすれば大きなことにつながります。僕達一中生全員も、他の人のために何かできる人になっていきたいです。これからも、人と人とのつながりを大切にして、復興を支援する活動を続けていこうと思います。